

真夏の祭典“新生”いい大人形劇フェスタ'99

笑顔いきいき 心はずんで



人形劇団ベコロスの熱演

今年も飯田の夏を人形劇一色に染め、新しくスタートした「いい大人形劇フェスタ'99」竜丘では五日の明星学園を皮切りに、六会場で行われました。

五日の竜丘公民館では、福井県の人形劇団「とんと」の公演がありました。

弱い者いじめばかりの子供たちが、雷さまのおしおきをうけて最後にみんなと仲良くなるというストーリー。テンポの良い表情豊かな劇団のみなさんの演技に子供たちは大喜びでした。

今年も飯田の夏を人形劇一色に染め、新しくスタートした「いい大人形劇フェスタ'99」竜丘では五日の明星学園を皮切りに、六会場で行われました。

★飯田市の夏を彩る「いい大人形劇フェスタ'99」が
★八月五日から八日にかけて開かれました。
★二十年間続いた「人形劇カーニバル」の再出発。
★今年も人形たちの熱い夏がやってきました。



みんな人形劇に夢中

「よろず劇場とんがらし」の公演でした。「とみやま人形劇祭りコンテスト」で賞をいただいたという「さんまのおふだ」の公演でした。

アイディアいっぱいの人形劇。あまりにもリアルなやまれば登場で泣き出し、でも小さい子供も泣いて見入っていました。

公演の後、見に来ていた劇人仲間が、照明もリモコンで動作するようになっている舞台装置を見て、「全部一人で作ったなんてすごい」ととても感激していました。

最終日は、竜丘小学校で台湾の「西螺新興閣掌中戯劇団」の公演がありました。

七月四日、竜丘小学校調理室で、中国帰国者と竜丘住民の交流会「好友会」の料理文化交流会が開催され、約六十人の参加者が中国料理を通じ交流を深めました。

人口 6,831人
男子 3,355人
女子 3,476人
世帯数 2,073戸
(11年7月末現在)

交流・味わい・好友会 第二回 料理文化交流会

七月四日、竜丘小学校調理室で、中国帰国者と竜丘住民の交流会「好友会」の料理文化交流会が開催され、約六十人の参加者が中国料理を通じ交流を深めました。

当日は十時に開会し、参加者は献立ごとの四班に分かれました。家族で参加された方もあり、園児からお年寄りの方まで幅広い年齢にこなす

涼菜(サラダ)、拍黄瓜(鳥肉とキュウリの炒め物)、湯(スープ)の四種で、あまり複雑すぎず、夏向きのもので、帰国者の方が選び教えてくれました。

今年は三回目、息子さんお孫さん親子三代による上演となりました。台湾秘技、指人形による吹き矢や皿回しには、場内大歓声ですばらしい技術に感動しました。

三蔵法師の旅を綴る「西遊記」は、小さい子供たちには少し難しかったようですが、たち回りの人形さばきの熱演に誰もがくぎづけになりました。

公演終了後には、中国帰国者を対象とした日本語教室「好友会」の家族の皆さんとの交流会が行われました。

小学生が製作した七夕飾りが飾られる中、中国語や日本語を交えて会話がはずみ、互いの文化を知り、理解を深め合い交流ができたことを喜んでいました。

新生フェスタの竜丘会場での入場者は、千五百五十人。昨年より三百人減となりました。

子供たちはもちろん大人の方も楽しめる内容のもの。孫さん親子三代による上演となり、台湾秘技、指人形による吹き矢や皿回しには、場内大歓声ですばらしい技術に感動しました。

心豊かな社会を — 防火防犯講演会開かれる —

去る七月十五日、竜丘小学校体育館に於いて、防火防犯講演会が百四十名の参加を得て行われました。

今回の講演は、最近青少年の犯罪が増している中で、子供たちの教育について考えてみよう、講師に県公民館長の柄木孝行先生をお招きし、「親の一言で決まる子供の将来」の演題で行われました。

話の中で、今話題になっている学級崩壊のことが取り上げられました。この理由として、昔の子供たちよりも我慢強さが欠けてきて

おり、授業中に集中力がなくすぐに騒ぎ易くなっています。これはテレビやゲームのめり込み、外で遊ばなくなり、体力的に落ちてきていることだそうです。又、ほしいものがあつたら何でも買ってもらうなどして、わがままに育てられてくると、共同生活をしていく中で我慢する場が必要な時に、できなくなるそうです。



七月にちなんで日本と中国の七夕の歌を披露し合い、楽しい雰囲気の中で幕を閉じました。

現在、竜丘地区には約七十名ほどの帰国者の皆さんが暮らしています。言葉や生活習慣で悩みを抱えたり困っている方も多くいます。

公民館では「日本語教室」も開講していますが、「好

な、心はずんでくるような人形との出会い……そんな出会いがいっぱいありました。

来年はあなたも出掛けてみませんか。

柄木田先生の話は、ジョークを交え、時には寸劇をしてみたりと、時々笑いを誘いながら時間もあっという間に過ぎていきました。

いつもなげなく接している親の言葉や態度に、子供たちの心は敏感に反応しています。もう一度私達大人が子供たちに対する接し方を見つめ直していくことが大切ではないかと、考えさせられました。

お知らせ
平成11年度
竜丘地区
文化祭が
11月13日(土)～14日(日)
に行なわれます。

「もったいない、もったいない。あーもったいない。」NHK朝の連続ドラマ、すずらんのトシさんの口ぐせです。最近言わなくなったと思いませんか。私も子供の頃は「ごはんを残すと目がつぶれる」など、物を粗末にしてはいけないと言われて育ちましたし、今程豊富に色々なものが捨てられる事もそう多くなかった様におもわれます。今はどうでしょうか。まとめ買いして腐らせてしまった結局ムダにしてしまった食品。こんなに食べたら太ってしまふからと残したり、全部食べられないのに次々とオーダーしたり。作った人が見ていたら、こんな悲しいことはないでしょう。皆さんもカタチは違いますがそれぞれ生産者です。一生懸命作ったものを平気で捨てられているのを目の前で見たらショックを受けないと思います。衣類や電化製品はどうなのでしょう。売れる側としては、新しい品物を売りたいでしょうし、でも、みんなゴミになるんです。これ以上どこに捨てるんですか。限りある資源を使い、ムダに捨てている現状を認識しないと、私達はゴミの中でくらすなければならないようになります。生活水準が上がって、私たちのまわりには物があふれています。お金さえだせば新しい物はほとんど手に入り、世はまさに飽食、使い捨ての時代です。手間が省ける、安い、便利だと、捨てるのも気楽になっては、ごみは増え公害は増すばかりです。作り手を思いながら食べ、良い物を長くつかう。そんな「物を大切に心」をもちたいものです。

竜丘の地域文化に触れてみよう

第21回竜丘地区市民大学講座 第一講

第二十一回の「竜丘地区市民大学講座」が、八月一日、桐林区民センターにて開催され、四十余名の参加者がありました。

当日は、講師に飯田美術博物館の桜井弘人学芸員を迎え、「桐林人形と伊那谷の人形芝居」と題して、講演を行って頂きました。また、講演に先立って、桐林区の皆さんが、毎年行っている、人形や衣裳などの虫干しの場所にて、実際に人形の「かしら」を見ながらの話があり、受講者一人一人が、桜井さんの話に引き込まれて行った様に思います。実物を見た後の講演は、大変にわかり易いものとなりました。

当日は、講師に飯田美術博物館の桜井弘人学芸員を迎え、「桐林人形と伊那谷の人形芝居」と題して、講演を行って頂きました。また、講演に先立って、桐林区の皆さんが、毎年行っている、人形や衣裳などの虫干しの場所にて、実際に人形の「かしら」を見ながらの話があり、受講者一人一人が、桜井さんの話に引き込まれて行った様に思います。実物を見た後の講演は、大変にわかり易いものとなりました。



五十点あり、伊那谷の中にも、まとまったコレクションであるが、文書記録が無い(発見されていない)ため、いつ頃から行われていたか不明であることから、桐林地区が「人形を購入しただけで、上演はされていないのではないか」という説もありますが、桐串(手持つ部分)が使い込まれていて、滑り防止の切り込みなどがある点から、盛んに上演されていたと思われる。また、上演場所としては、桐林八幡宮ではないかと推測された。昭和二十八年に二十八カ所あったと推測されます。伊那谷では盛んに、人形芝居が上演されていたと考えられるようです。

願いごと・かなうかな

おひさま文庫七夕祭り

おひさま文庫の七夕祭りが、去る七月十七日に竜丘公民館で行われました。文庫の係の皆さんが、毎年様々な企画を考えてやって下さっています。

今年、貸し出し文庫日に行われました。その時に、それぞれ思い思いの願いごとが書かれた短冊や、飾りを作って、笹に飾られました。その後、紙芝居『織り星と彦星』のお話、

今年、貸し出し文庫日に行われました。その時に、それぞれ思い思いの願いごとが書かれた短冊や、飾りを作って、笹に飾られました。その後、紙芝居『織り星と彦星』のお話、



位になってしまったので大勢の方の利用を待っています。子供の頃から沢山の本に触れてほしいと係の方の気持ちがあります。次回もクリスマス会を計画しているとの事。また、毎週水・土曜日の午後二時から五時に文庫を開館している。子供の方の利用を待っています。



第一講の講演を終え受講者からは、「桐林人形の素晴らしさがわかった」などの感想が聞かれ、大変に、

芸術と自然に親しむ

公民館委員研修旅行

去る七月二十日、公民館委員研修旅行が行われました。昨年より委員相互の交流を深め、連携を持ちながら進めるために、年度の前半の「海の日」に行われるようにになりました。今年度は、体育委員が当番幹事となり、「湖面に映える芸術の香りと白樺リゾート・芸術と高原リゾートの自然に親しみながら楽しみたい」との計画に、二十六名の参加者が集まり出発しました。

去る七月二十日、公民館委員研修旅行が行われました。昨年より委員相互の交流を深め、連携を持ちながら進めるために、年度の前半の「海の日」に行われるようにになりました。今年度は、体育委員が当番幹事となり、「湖面に映える芸術の香りと白樺リゾート・芸術と高原リゾートの自然に親しみながら楽しみたい」との計画に、二十六名の参加者が集まり出発しました。



原田泰治美術館にて

当日は、梅雨明けかえとあって、小雨の降るなか最初の見学先「諏訪市原田泰治美術館」へと向かいました。今回メインの目的先でもあった、「原田泰治美術館」は、昨年開館したばかりで

地域の今を明日に残そう

公民館で会員募集の呼びかけがありました。初会合では、女性の参加者含め、十数名の出席がありました。始めに、会をつくる経緯の説明が事務局からあり、参加者たちの会に入るうと思っただけなど話合いました。

竜丘の行事祭りや公民館行事など撮りや活動を記録だめしたビデオ作品を文化祭で上映した際に、地区の歴史や数々ある文化などの記録を、ビデオで保存していきたくて話が持ち上がった。しかし、桶さんがご病気で、三年程前にならぬ撮影ができなくなったことや、ビデオカメラの普及に伴い、撮影されている人は他にもいるだろうと、桶一郎さんが

桶一郎さんがご病気で、三年程前にならぬ撮影ができなくなったことや、ビデオカメラの普及に伴い、撮影されている人は他にもいるだろうと、桶一郎さんが

カナタ生まれのニュースポーツのキンボール

Cブロックニュースポーツ交流会

Cブロックの体育委員が一堂に会する交流会が、七月二十四日、松尾小学校で開催されました。ニュースポーツの振興を進める様、キンボールとベタンク、クロロティの三種目を、各地区の体育委員が、三グループに分かれて、体育指導員より講習を受けました。

その中でも、今年から普及を始めた「キンボール」は一試合で三チームが同時に対戦できる一風変わったスポーツです。

一チーム四人で、チーム毎にピンク、グレー、ブラックの色のついたゼッケンをつけます。直径百二十センチもあるピンクの大玉を使い、サブチームの三人が玉を支え一人がサブをし



大玉おくりではありません

玉を支え一人がサブをし玉を蹴る。この時「オムニキ、落とさないように、呼ばれたチームは必死になって追いかけて四苦八苦。最初は要領を得ませんでした。だんだん慣れてきて「オムニキ」の掛け声と共に笑い声も聞こえてくる楽しい研修となりました。

また、講習会の後にCブロック体育委員の交流会を行いました。初めての試みでしたが、同じ体育委員として、活動等の話題で盛り上がり、地区を越えての交流会となりました。